

エヴィデンスの集い

第69回大会（広島大会）において、エヴィデンスワーキンググループ主催の実証研究についてポスター発表が初めて行われました。第70回大会（名古屋大会）においても精神分析および力動的心理療法の理論、概念、技法、実践、および効果に関連する実証研究に関するポスター発表の機会を設けることになりました。2024年5月13日に本学会の会員に電子メールで抄録作成要項を配信し、応募締め切りを6月末日として、後に2週間延長しました。その結果、以下の4つの演題の応募があり、エヴィデンスワーキンググループで内容を確認して、発表していただくことになりました。

司 会：鈴木菜実子（駒澤大学文学部心理学科）

【発表1】

「生きづらさ尺度（仮）」の開発：数値化しづらい精神分析的な精神療法の効果計測のために

○久保太聖¹⁾、香月亮子¹⁾、舩田亮太^{1, 2)}、小田可奈子¹⁾、加藤隆弘¹⁾

¹⁾九州大学大学院医学研究院精神病態医学、²⁾椋山女学園大学人間関係学部心理学科

【発表2】

マルトリートメントは、新型／現代型うつ特性を形成し、ひきこもりを引き起こすのか？

気分障害ひきこもり外来での自記式スケールを用いた多母集団同時分析

○舩田亮太^{1, 2)}、香月亮子²⁾、加藤隆弘²⁾

¹⁾椋山女学園大学人間関係学部、²⁾九州大学大学院医学研究院精神病態医学

【発表3】

アルコール性肝不全に対する肝移植における応用実践：サイコセラピーの質的検討

○岸辰一¹⁾、若子静保²⁾、松井風佳²⁾、野村美夢²⁾、岡田真典²⁾、木村宏之³⁾

¹⁾名古屋大学医学部附属病院医療技術部、²⁾名古屋大学医学部附属病院精神科、

³⁾名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野

【発表4】

日本語での「自由」についての探索的研究

○蓮井千恵子¹⁾

¹⁾武蔵野大学人間科学部人間科学科

ポスターは大会2日目の朝から掲示します。発表時間になりましたら、会場にお集まりください。演者による発表の後、参加者との討議を予定しています。本学会で精神分析に関する実証研究が活発になることを祈念しています。

文責 岡田暁宜